

登別市立幌別西小学校

指定年度：H30～
児童数：304名

1 包括的な学校改善に向けた取組の概要

- ① グランドデザインによる目指す子供像の提示と方向性の共有
 検証改善サイクルの実質化と迅速化による持続的な学校改善を行うため、目指す子供像を具体的に示し、実現に向けた方向と指針、重点化した成果指標（数値目標）を示しながら、コミュニティ・スクールとしてのグランドデザインを描き、学校・家庭・地域で共通理解を図った。
- ② 取組の成果を実感できる学校マネジメント
 本校が目指す「総合的な学力」を構成する知・徳・体の力について、SMART に基づく検証可能な目標を設定し、検証改善サイクルの過程で、可視化された達成状況を確認することにより、教職員が明確な課題意識をもちながら教育活動に取り組むことができるようにした。
- ③ 若手と中堅、ベテランが確実に力を伸ばす人材育成
 特にメンターを設定せず、全教職員による若手の育成を基本に授業参観やOJTを推進したり、放課後のテーマ別研修を市内の指定校と連携して両校の教職員が講師となって実施したりしながら、若手が学ぶ機会や中堅・ベテランが若手を育てる機会の充実を図った。
 また、有識者等を講師として日常の授業改善に直結する校内研修の設定や、道内外に出かける研修機会の提供等を通して、指導力の全体的な底上げを図った。



【外部講師による講演・研究協議の様子】



【視察報告の様子】

2 取組の成果と課題（□：成果 ■：課題）

- 経営方針を構造化したグランドデザインを示すことで、教職員、保護者、地域住民等が重点項目や役割分担を共有し、三者の経営参画意識を高めることができた。
- 検証改善サイクルの過程において可視化された達成状況を共有することで、教職員が手立てを修正したり、プラスONEの工夫を重ねたりしながら教育活動を行うことができた。
- 「若手教員を全員で育てる」という共通認識の下、若手教員が本校在任中に卒業担任や分掌部長を経験できるよう人員配置することで、効果的に人材を育成することができた。
- 積極的に研究授業を設定したり、校外研修への参加を奨励したりすることで、学校全体として研修意欲の向上が見られた。
- 年度ごとの人員配置の変更に影響されない若手教員等を含む教員の資質・能力の向上を支える校内体制を工夫する必要がある。

